

学習指導案（国語科）

担当教諭

実習生

一 対象 第三学年 名

二 日時 二〇一九年 六月 十三日（木曜日） 第二校時

三 場所 三年 教室

四 単元名 随想「鈴虫の間、ぼくの六畳間」（現代文B 改訂版—筑摩書房）

五 単元について

(1) 単元の目標

- ・アメリカ人でありながら日本語での執筆に励む、筆者独特の言い回しや表現を理解する
- ・「鈴虫の間」と筆者「独特の間」の関連性やつながりを考える。
- ・「間」という言葉についてよく理解し、筆者「独特の間」に照らし合わせ、自分たちの「独特の間」を考える。

(2) 教材観

詩や随筆を得意とする筆者で、独特の表現技法によって、読者に言葉の意味を深く考えさせるような文章である。難しい言葉遣い、独特の言い回し、偉人の名前などが各所に登場し、読み手の知識量も問われる作品と言える。鈴虫に関する話と自分に関する話の中で、わざと同じような言葉を選んだりしており、読み手によっては捉え方が異なると思われる。

一見、何の関連性もなさそうな「鈴虫」と「人間（筆者）」の「間」が、最後に重なって見えるところが面白い。

(3) 生徒観

三年 の印象は、元気や活気に溢れており、授業を盛り上げてくれる生徒が沢山いる。また、楽しみつつも前向きに授業に取り組む生徒ばかりであるため、授業をする側も教えやすい印象がある。ただ、メリハリの付け方に注意し、しまりのある授業展開にしていく必要も感じる。

随想（随筆）に関しては、古典の三大随筆を学んだ経験はあるようだが、現代文については曖昧である。そのため、こちらが上手く生徒の興味を引き付ける事で、積極的な発言や活動を実施し、随想という単元の読解への印象を強めたい。

(4) 指導観

内容的にも量的にも、それほど長く重い教材ではないため、教師側も生徒側も取り組みやすいと思われる。しかしながら、単に教科書に沿って進めていくだけの単調な授業では、生徒の集中が切れてしまう恐れもあるため、生徒が主体となるグループワークや、興味が湧くようなイラスト、写真、動画などを適宜使用する。また、発表などの機会を増やし、生徒一人一人の発言機会を多くする。

六 単元の指導計画

時	学習活動	指導上の留意点	評価基準
一	<ul style="list-style-type: none"> 「間」をイメージして通読する。 第一段落を読解する。 	<ul style="list-style-type: none"> パワーポイントを活用し、スムーズに作品内容をイメージができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的発言【関】 板書【書】
二	<ul style="list-style-type: none"> 第二段落を読解する。 「イメチェン」と「そう聞こえる」に注目し、筆者の考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> パンクロックとクールジヤズの動画を実際に見せる事で、鈴虫の鳴き声の変化を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 穴埋め【読】【書】 授業への参加度 【関・意】
三	<ul style="list-style-type: none"> 第三段落を読解する。 「外人ハウス」と「六畳一間」の違いと共通点を理解する。 「ぼく独特の間」について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 発言する機会を多く設け、生徒の考える力を引き出す。 大切な段落であるため、分かりやすく且つ簡潔に板書をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 内容理解【読】 積極的発言【関】 板書【書】
四	<ul style="list-style-type: none"> 第四段落を読解する。 この作品を通じての筆者の主張、主題を理解する。 「ぼく独特の間」に則って、自分たちの「独特の間」を考える。 発表し合い、改めて様々な「独特の間」を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 総まとめとして、これまでの段落を簡単に思い出させらる。 ワーク実施時は、活動が滞らないようにパワーポイントで適宜ヒントを与えながら、イメージを掴ませる。 時間配分に注意し、自主活動の時間を十分に取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 内容理解【読】 自分の意見を書き、発表する【書】 【話】

七 本時案

(1) 本時の目標

- ・筆者の「独特の間」を理解し、「鈴虫」と「ぼく」の関連性をまとめる。
- ・「ぼく独特の間」に倣って、自分達それぞれの「独特の間」を考える。

(2) 本時案

時間	学習活動	指導上の留意点	評価基準
導入 五分 十分	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までを振り返る。 ・これまでの話の流れ全体を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ここで言う「ぼく独特の間」とは何だったかを思い出させる。 ・これまでのパワーポイント等も活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スラスラと読めている 【読】 ・教科書、ノートを開いて考えている 【関・意】 ・積極的発言 【意】【話】
展開 十五分	<ul style="list-style-type: none"> ・P.208を読み返す。 ・当てられた場合は大きな声で読む。 ・教師からの問いかけ（「ぼく独特の間」では何が行われているのか）に対する答えを考える。 ・分かったら手を挙げて発表する。 ・指名された場合は積極的に答える。 ・板書をノートに取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人を指名する。 ○ 「ぼく独特の間」に立ち返って、筆者は何をしようとしているのか？ ヒント…何を作る時に立ち返っているのか？ △ 「詩を作る時、詩を作ろうとしている。」 ・挙手が指名で一人発表。 ・来日時は（変わった遊び）から「ストーリーライン」を見つけ出していたが、現在は「独特の間」から「新たな詩」を生み出すとしている事の確認。 ・↓ここに立ち返る……までを板書する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートをしつかり書いている【書】

時間	学習活動	指導上の留意点	評価基準
活動 まとめ 二十五 三十分	<ul style="list-style-type: none"> ・「鈴虫の間」がきれいさっぱりになるとは、次にどういった展開になるかを考える。 ・分かった場合は答える。 ・指名された場合は積極的に答える。 ・板書をノートに取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・四段落で再び鈴虫が登場している事を確認する。 ・鈴虫の間がきれいさっぱりになるといふ表現は、何を表しているのか？ ・次にどうなるという事か？ ・ヒント：鈴虫飼育の過程についてまとめた、二段落のノートを見る。 ・また新たな鈴虫が誕生してくるという事。 ・挙手が指名で一人発表。 ↓新たな命：までを板書する。 ・「鈴虫の間」が新たな命の誕生に繋がるのに対し、「ほく独特の間」は新たな作品の誕生に繋がる事を再確認させる。 ↓最後まで板書する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「間」について考え、自分の意見を書けている【書】 ・発表やグループワークに積極的に取り組んでいる【意】【話】
活動 まとめ 二十五 三十分	<ul style="list-style-type: none"> ・「ほく独特の間」に倣って、自分達それぞれの「独特の間」について考える。 ・プリントを受け取る。 ・パワーポイントを見て、イメージする。 ・プリントに自分たちの「独特の間」を書いてみる。 ※グループで共有し合う。 ・自分の「間」を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この作品を踏まえて、アーサー・ビナードのような「独特の間」が自分達にもないのか考えさせる。 ・プリントを配布し、パワーポイントにてスポーツ選手の間（ルーティン）等を見せる。 ・ワークの最中は机間巡視を行い、時間配分に気を付けながら、グループワークにするか、各自発表にするかを判断する。 	

鈴虫の間、ぼくの六畳間

アーサー・ビナード

「ぼく独特の間」

◎ 詩を作る時に立ち返る、自分の中のきれいさつぱりの間
↓ここに立ち返ることで、新たな詩が生まれる。

④ ガラス張りの鈴虫の間—きれいさつぱり



新たな命の誕生を待つ

「ぼく独特の間」—きれいさつぱり



新たな作品を誕生させる

鈴虫の間、ほくの六畳間

アーサー・ゴナード

◎みんなの「独特の間」ってなんだろう？
ルーティーン？習慣？食べ物？飲み物？

